

見本・記入例

財団処理欄

受付No.

提出日

2024年10月1日

JR西日本あんしん社会財団 御中

2025年度研究助成申請書

※実際の申請は、指定のお申込みフォームからです。この記入例を参考に必要事項を入力の上申請してください。

1. 助成金により実施される研究名称／助成金申請額

研究名称	来るべき南海・東南海地震被害を想定した地域コミュニティの防災力向上に関する研究
申請研究期間	<input type="checkbox"/> 1年間 <input checked="" type="checkbox"/> 2年間
助成金申請額	2,800,000 円 ※150万円以下/年、2年助成の場合は最大300万円となります。

※「研究名称」は分かりやすい簡潔な名称を記入してください。

学生(大学院生含む)の応募は1年間の助成に限ります。

2. 代表研究者(申請者)

フリガナ	ザイダン タロウ	生年月日	1977	年	8	月	8	日
氏名	財団 太郎	年齢	47	歳				
所属機関	フリガナ	ニシニホンアンシンダイガク						
	機関名	西日本あんしん大学 社会安全学部						
	役職	教授						
	〒	530	-	8341				
	フリガナ	オオサカシキタクシバタ						
	住所	大阪市北区芝田二丁目4-24						
	電話	06-6375-3202			Fax	06-6375-3229		
	E-mail	info@jrw-relief-f.or.jp						
URL	https://www.jrw-relief-f.or.jp/							
自宅	〒	593	-	8311				
	フリガナ	オオサカフサカイシニシク						
	住所	大阪府堺市西区〇丁目〇番〇号			<input checked="" type="checkbox"/>	郵便物配送先として指定する		
	電話	072-123-4567			Fax	072-123-4567		
	E-mail	nisi-nihon_zaidan_5470@e-mail.com						
最終学歴(専攻分野)	西日本あんしん大学 経済学部経済学科 博士課程							

3. 代表研究者の略歴等

(1) 略歴

最終学歴から記入をはじめ、それ以降の略歴を年代順に記入してください。

2000年3月31日	西日本あんしん大学 経済学部経済学科 卒業
2006年4月1日	南海女子大学 社会学部 専任講師
2011年4月1日	南海女子大学 社会学部 社会学科 助教授
2012年4月1日	南海女子大学 社会学部 社会学科 准教授
2015年4月1日	東南海女子大学 社会学部 社会学科 准教授
2017年4月1日	西日本あんしん大学 社会安全学部 准教授
2016年2月1日	一般社団法人 地域コミュニティ防災連絡支援協議会 理事
2022年4月1日	西日本あんしん大学 社会安全学部 教授(～現在に至る)

(2) 研究論文等

申請いただいた研究テーマに関連する直近の研究論文等から順に最大3件まで記入してください

※研究テーマに関連する直近の研究論文等がない場合は、その他の研究テーマに関して記入してください。

論文名 (タイトル)		
著者名 (筆頭3名)	掲載誌 (研究発表会) 等 発刊等 (巻・項や年・月・日)	内容の要約
全国の消防団活動に関する連携とその歴史的背景		
財団 太郎	日本と都市について 第〇巻 第〇号, 2022年10月1日	アンケート調査やヒアリング調査を実施しながら、全国の消防団の連携を探りつつ、その歴史的な背景を明らかにし、あらためてその組織の課題を提起した。
災害地域における組織的特性について		
財団 太郎 財団 次郎	土木学会論文集 Vol. 〇〇、No. 7	過去にあった災害地域を比較調査し、被害の拡大や縮小、その復興に関し、いかに当該地域の特性が関与したかを明らかにした。
Tohoku Earthquake Tsunami		
Taro Zaidan	Earth Planets Vol. 〇〇. 〇〇. pp.	2011年の東北地震による津波の影響力を調査、分析し、地域特性が被害の拡大に影響したのかを考察した。

4. 助成研究計画

(1) 助成金により実施される研究の形態 (以下のうち、該当するものにチェックを入れてください)

<input type="checkbox"/>	個人研究
<input checked="" type="checkbox"/>	共同研究 (代表研究者含む計 3 名)

※共同研究の場合は、以下に代表研究者を含む全研究者について必要事項を記入してください。なお、「関与度合い」には、各研究者の研究への関与率を合計100%となるように記載してください。

氏名	年齢	所属機関・役職	研究における役割	関与度合い
《代表研究者》 財団 太郎	46	西日本あんしん大学・教授	研究総括・分析	40 %
《共同研究者》 財団 次郎	35	西日本あんしん大学・助教	数値シミュレーション	30 %
財団 三郎	27	西日本あんしん大学・助手	現地調査	30 %
(※100%にしてください) 計				100 %

(2) 助成金により実施される研究の概要

<記入方法> 助成金により実施される研究の計画を項目毎に以下のとおり記入してください。

上2段(①・②欄)：各項目について概要を簡条書きで分かりやすくまとめてください。

詳細：各項目についてできるだけ詳しい内容を記入してください。

※倫理的配慮についても具体的に記載してください(【倫理的配慮への対応】欄)。

※各項目において補足説明等が必要な場合は、「7. 補足記入欄」に記入してください。

【目的】	
この研究の目的を記入してください。	
①	本研究では、来るべき南海・東南海地震が発生した際の地域間ネットワークを利用した被害低減を目的とする。
②	災害発生地区の地域間ネットワークの効率的な構築により、平常時の地域コミュニティ形成にも役立つ。
詳細	
まず、本研究では、来るべき南海・東南海地震が発生した際の被害低減を第一の目的としたい。その理由として、以下のことが挙げられる。	
..... (中略)	
..... したい。	
災害発生地区の地域間ネットワークの構築が、被災地におけるコミュニティ形成に役立つとは、以下のようなことである。 も役立つとは、以下
.....	
.....	
..... であり、より一層その効果が期待できる。	

目的欄の記入にあたっては、この研究全体のゴールイメージがわかるようにしてください。
※後記する成果欄では、今回助成期間における研究の到達点がわかるようにしてください。

【実施方法】	
この研究の実施方法を記入してください。	
詳細欄には、なるべく詳しい内容とあわせて研究スケジュールを記入してください。	
①	資料やインタビュー調査を実施し、災害被害に対する各地域特性との関係を比較検討する。
②	得られた各種データから分析を行い、各地域間ネットワークを構築し、被害低減の方法を結論づける。
詳細	
《第1年度》	
【過去の災害資料から基礎的情報を把握する】	
まず第一に過去の資料から災害における基礎的情報を得るための予備調査を実施する。そのために.....	
..... (中略)を行う。	
【現地調査の実施】	
基礎的情報を得たうえで、過去に災害があった地域へ行き現地調査を実施する。例えば、.....	
..... (中略)を行う。	
《第2年度》	
【得られたデータを数値化し、阻害要因等の把握整理を行う】	
上記で得られたデータをもとに、阻害要因の把握につとめ.....	
..... (中略)	
..... 的な知見が得られる。	
申請研究期間が1年間の場合は、記入の必要はありません。	

実施時期 (予定)	研究内容
《第1年度》	
4月～6月	書籍等を主とした基礎的情報の収集。災害伝承も含め、日本全国で発生し、主だった被害を与えた災害を中心に調査を実施する。
5月	
9月～3月	予備調査を実施したうえで、災害被害地区をピックアップし、現地調査を実施する。収集データは随時数値化、整理を行う。
《第2年度》	
4月～12月	得られたデータから災害時の地域間ネットワークを阻害する要因等を導き出し、各地域間ネットワークの構築と被害低減に向けた理論化を行う。本研究に対する論文を作成する。
2月	学会での論文発表

②2025年度の申請状況（現在応募中若しくは既に決定しているもの）

他団体名等	テーマ	助成金額（円）	助成期間	状況	重複時の対応
日本学術振興会	・効率的な地域間ネットワークについて	2,500,000	2025年度	申請中	(A)
	・津波災害と災害伝承	4,000,000	2025年～2026年	申請中	(C)

当財団の他にも助成申請している団体等があれば、その重複申請の状況（対応等含め）を必ず記入してください。

5. 研究収支

- ・助成研究に関する全収支計画を記入し、「研究資金」の合計額と「使途（内訳）」の合計額との金額が一致するようにしてください。
- ・計画収支の積算に際しては、事後に過不足ができるだけ生じないように、充分かつ慎重な検討を行ってください。
- ・当財団からの助成金の使途が分かるように、助成金を使用する項目では「（内 助成金充当額）」の欄に、使用する助成金額を再掲してください。
- ・各項目における計画額の内訳と算出根拠を「内訳・算出根拠」の欄に記入してください。

【2年間の助成金の支出計画】

項目	第1年度		第2年度		
	計画額（円）	（内 助成金充当額）	計画額（円）	（内 助成金充当額）	
研究資金	当財団助成金	¥ 1,500,000		¥ 1,300,000	
	自己資金	¥ 500,000			
	その他				
	計	¥ 2,000,000		¥ 1,300,000	
使途（内訳）	図書費	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ 100,000
	旅費交通費	¥ 600,000	¥ 300,000	¥ 200,000	¥ 200,000
	諸謝金	¥ 234,000	¥ 234,000	¥ 144,000	¥ 144,000
	人件費	¥ 560,000	¥ 360,000	¥ 560,000	¥ 560,000
	印刷製本費	¥ 50,000	¥ 50,000	¥ 50,000	¥ 50,000
	消耗品費	¥ 40,000	¥ 40,000	¥ 40,000	¥ 40,000
	什器備品費	¥ 251,000	¥ 251,000	¥ 63,000	¥ 63,000
	その他費用	¥ 165,000	¥ 165,000	¥ 143,000	¥ 143,000
	計	¥ 2,000,000	¥ 1,500,000	¥ 1,300,000	¥ 1,300,000

【第1年度の助成金の支出計画】

項目	計画額（円）	（内 助成金充当額）	内訳・算出根拠	
研究資金	当財団助成金	¥ 1,500,000	※1万円未満の端数を切り捨てた額を計画額に掲載	
	自己資金	¥ 500,000	研究用自己資金	
	その他			
	計	¥ 2,000,000		
使途（内訳）	図書費	¥ 100,000	¥ 100,000	関係書籍 単価2,000円×50冊（〇〇や△△といった書籍）
	旅費交通費	¥ 600,000	¥ 300,000	国内調査（主に和歌山）5万円×6回（5万円の内訳詳細 〇〇@・・・）、海外への調査30万円（海外調査の内訳詳細 △△@・・・） ※一部自己資金から負担
	諸謝金	¥ 234,000	¥ 234,000	アドバイザー代、海外での通訳代（単価等内訳 〇〇@・・・）
	人件費	¥ 560,000	¥ 360,000	データ入力等研究補助：時給1,000円×7時間×40日×2人（期間は5月と6月の2ヶ月間を予定） ※一部自己資金から負担
	印刷製本費	¥ 50,000	¥ 50,000	国会図書館等での資料複写
	消耗品費	¥ 40,000	¥ 40,000	
	什器備品費	¥ 251,000	¥ 251,000	
	その他費用	¥ 165,000	¥ 165,000	
計	¥ 2,000,000	¥ 1,500,000		

各使途の項目（費目）は次頁「参考」の内容を参考に、お申込みフォームのリストから選択してください。

・全体の研究資金の合計額と使途（内訳）の合計額が合うように記入してください。
・各使途の項目に対して、当財団の助成金はいくら充当するのかをしっかりと記入してください。

【第2年度の助成金の支出計画】

項目		計画額 (円)	(内 助成金充当額)	内訳・算出根拠
研究資金	当財団助成金	¥ 1,300,000		※1万円未満の端数を切り捨てた額を計画額に掲載
	自己資金	¥ -		
	その他			
	計	¥ 1,300,000		
用途(内訳)	図書費	¥ 100,000	¥ 100,000	関係書籍 単価2,000円×50冊 (〇〇や△△といった書籍)
	旅費交通費	¥ 200,000	¥ 200,000	国内調査(主に和歌山) 5万円×4回(5万円の内訳詳細 〇〇@・・・) ※一部自己資金から負担
	諸謝金	¥ 144,000	¥ 144,000	アドバイザー代(単価等内訳 〇〇@・・・)
	人件費	¥ 560,000	¥ 560,000	データ入力等研究補助:時給1,000円×7時間×40日×2人(期間は9月と10月の2ヶ月間を予定)
	印刷製本費	¥ 50,000	¥ 50,000	国会図書館等での資料複写
	消耗品費	¥ 40,000	¥ 40,000	文具等を想定(〇〇@2,000円×10個、△△@10,000円×2)
	什器備品費	¥ 63,000	¥ 63,000	比較のための防災備品の購入(内訳詳細 〇〇@・・・、△△@・・・、□□@・・・)
	その他費用	¥ 143,000	¥ 143,000	大学の一般管理費(助成金の10%+消費税10%)
	計	¥ 1,300,000	¥ 1,300,000	

《参考》

研究収支作成の際は、以下の項目(費目)を参考に作成してください。

○収入の部

- ・既に入力されている項目

○支出の部

- ・旅費交通費 …… 研究を実施するために必要となる研究者及び共同研究者の出張旅費など
- ・会議費 …… 会場使用料、会場設営費、お茶代など
- ・通信運搬費 …… 郵送料、宅配便代など
- ・印刷製本費 …… ポスター、パンフレット等の印刷代や資料等複写代など
- ・図書費 …… 研究に必要な書籍等の購入費
- ・広告宣伝費 …… 研究に関するシンポジウム等の開催告知など新聞、雑誌等で広告するための費用
- ・什器備品費 …… 一件5万円以上で研究の実施に必要な備品等の購入費用
- ・消耗品費 …… 一件5万円未満で研究の実施に必要な備品等の購入費用
- ・賃借料 …… 設備、機械、器具、備品などの借料
- ・委託費 …… 研究の実施に関する委託を行った際の費用
- ・諸謝金 …… 研究に必要な研究者及び共同研究者以外に対する謝礼金や旅費、交通費、宿泊費など
(研究者及び共同研究者の謝金は対象外)
- ・人件費 …… 研究を行うことにより新たに必要となるアルバイト代など**(研究者及び共同研究者の人件費は対象外)**
- ・その他費用 …… 上記各費目に該当せず、特に必要なその他の経費

6. 2024年度公募助成及び2023年度研究助成(2年助成)による研究の経緯(計画に対する研究状況等 9月末時点)

◆成果

過去の災害事例の情報収集を行いながら……………(中略)……………現地調査が完了し、11月から調査データの解析に着手する予定である。
※学会発表、論文発表の予定があれば記入し

2024年度助成及び2023年度2年助成で採択となった研究者の方のみ記入してください。

7. 補足記入欄

上記の他に助成金により実施される研究に関して特に補足説明することがあれば記入してください。また、本申請と関連テーマに対するこれまでの研究の成果について必要により記入してください。

◆本研究に関する補足

【今回の研究計画を実施準備について】

本研究に関しては、事前のアンケート調査を実施するなど、以前より調査の蓄積があり……………（中略）……………
 ……基礎的な土台を築き上げてきた。

【調査実施における現時点での課題】

本研究を実施するにあたり、現時点で若干の課題が存在することをあらかじめ述べておく……………（中略）……………
 ……とはいえ、上記の手法を使用すれば、全てとは言えないが7割方の課題は取り除くことが可能となる。

【研究経費の妥当性など】

本研究では、国内外への調査費用も計上しているが、それについての妥当性を以下に述べておく。
 つまり……………（中略）……………。

上記のような理由であれば、海外調査の妥当性も明白である。

また、本研究の成果は社会的にも大きな波及効果が考えられ、手法そのものにも以下のように独創的な点が見受けられると考える。

●……………

●……………

●……………

- ・補足記入欄については必須ではありません。申請書の他の欄で記入しきれなかったことなど、今後の審査にあたり、ぜひとも伝えたい情報等があれば記入してください。
- ・研究成果の実用化の見通し等があれば記入してください。

以上のこと以外、本研究と関係のあることでも、実証や実用には必ずしも必要でないことを認明してください。

8. その他、添付資料

- ・ 第三者への委託費及び内容
- ・ 指導教員の確認書
（学生(大学院生含む)の応募の場合)
- ・ その他

助成研究の一部を第三者に委託する場合は、委託内容とその費用について具体的に記されている資料(見積書や仕様書)を入力画面上の参照ボタンから**必ず添付**してください。
※見積書等が添付されていない場合は申請できません。

学生(大学院生含む)の応募の場合、指導教員の確認書を入力画面上の参照ボタンから**必ず添付**してください。
 その他、任意に必要な資料があれば、入力画面上の参照ボタンから添付してください。

※次頁に申請前に必ずご確認いただきたい項目や公募助成申請者用チェックシートを添付しますのでご活用ください。

申請前にご確認いただきたいこと

○以下は、過去の審査において書類不備となった例です。せっかく良い活動や研究であっても不採択となってしまいますので、ご注意ください。

＜過去に不採択となった書類不備の例＞

- ・ 必要事項の記入漏れ。
- ・ 計画の目的・実施方法・成果の詳細欄に具体的な記載が不十分。
- ・ 助成期間外に活動・研究、または経費を支出する計画となっている。
- ・ 収支の金額が不整合、内訳・算出根拠が不明確。
- ・ 助成対象外の経費に助成金を充当する計画となっている。
- ・ 活動助成において近畿2府4県以外の活動割合等（回数及び経費支出）が高い計画となっている。（特別枠の応募で、特別枠の該当エリアでの活動の場合を除く）
- ・ 必要な見積書がない。 等

公募助成申請者用チェックリスト

○下記項目については、提出前に再度ご確認のうえ申請入力を完了してください。

【共通】

- | | ⇒ | チェック |
|--|---|--------------------------|
| ・ ※マークは必須項目。忘れずに入力が完了していますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 目的、実施方法、成果の詳細欄は「具体的」かつ「わかりやすく」記載できていますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 実施時期の記載は助成対象期間内となっていますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 収支の内訳・算出根拠は単価等も詳細に誤りなく記載できていますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 助成金の対象とならない費用は、他の資金を充当する計画となっていますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |

【活動】

- | | | |
|--|---|--------------------------|
| ・ 活動内容が昨年と同じ時は、申請分類は「継続」を選択できていますか。（特別枠除く） | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 特別枠の申請では申請分類は「継続」でなく「特別枠」を選択できていますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 団体メンバーの人件費を助成金の対象としていませんか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 役員名簿は添付されていますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |

【研究】

- | | | |
|---|---|--------------------------|
| ・ 研究論文(研究テーマに関連するもの、およびその他主な論文)は記載していますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 科目にかかわらず研究の一部を第三者に委託する場合は、見積書や仕様書を添付していますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 代表及び共同研究者への日当、謝金を助成金の対象としていませんか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 倫理的配慮について（それを要する分野の場合）、申請書に記載しましたか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |
| ・ 学生(大学院生含む)の応募の場合、指導教員の確認書を添付していますか。 | ⇒ | <input type="checkbox"/> |

<アンケート>

本公募助成の広報活動についてアンケートにご協力をお願いします。なお、ご回答の内容は、審査・選考に一切影響いたしません。

Q. 本公募助成を何でお知りになりましたか。該当する項目すべてに○をつけ、⑤⑥⑦⑨を選択された場合は、具体的にご記入ください。（複数回答可）

- ①ホームページ/フェイスブック ②広報誌“Relief” ③財団からの直接の案内 ④駅掲示のポスター
⑤メディア（新聞・ネットニュース等） ⑥当財団以外の団体からの紹介 ⑦他研究者からの紹介
⑧大学等所属機関からの案内 ⑨その他

具体的記載	
-------	--